

早稲田大学 教育学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	出題形式・分量(記述式10問・選択問題40問の計50問)とも昨年と同じ。記述式は全問が基本的内容。選択問題のうち正誤判定問題は昨年に比べ易化した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	世界恐慌関係史	記述式は易しい。選択式の(1)－aの恐慌発生時の大統領はフーヴァー。bのインフレはデフレが正しい。(2)－cは消去法で選ぶ。(3)はaが正しい。ニューディール政策は恐慌発生前のレベルに回復することのないまま、1937年には大幅な景気後退に見舞われ、米経済はその後の戦時経済によってようやく回復をとげている。(4)の挙国一致内閣には労働党は入っていない。(5)－dはローザンヌ会議に出席が正しい。(7)のうちa・b・cはドイツ人地域だが、dの独ソ不可侵条約は独ソで非ドイツ人地域である東欧の分割(ポーランド西部は独、ポーランド東部・バルト3国・フィンランドはソ連の勢力圏とする)を約している。(8)－d、リットン報告に基づく対日勧告案は賛成42・反対1(日本)・棄権1(タイ)で採択された。当然、独は賛成票を投じた。当時の独は中華民国を支持し、軍事顧問団も派遣していた。(9)－bの国際貿易機関(I T O)は計画されたが実現せず、その憲章の一部がG A T Tとなった。実にマイナーな事項だが消去法で対処できる。	一部難
2	古代オリエント・イラン・ローマ	記述問題は易しいが、正誤判定と語群選択は難しいものがある。(1)－dのイスラエルはユダが正しい。(2)(3)は基本的事項。(4)－bはクテシフォンではなくヘカトンピュロスが正しい。dのパルティア関係は人間科学部でも出ていた。(5)－cはビザンツではなくイスラーム勢力、(7)のスラはマリウスが正しい。(8)のアクティウムはギリシア沿岸の地。(9)－cのパルミラは現シリアの都市。(10)のヨセフスはユダヤ戦争をギリシア語で記録したユダヤ人だが受験レベルを完全に逸脱。プルタルコスとストラボンがギリシア人。	一部難
3	中国史上の征服王朝	記述式と語群選択の(1)(2)(3)は易しい。(4)－bの猛安・謀克は文学部で出ていた。(5)の文字の系統と(6)の泉州の異称は頻出項目。(8)－bの五港通商章程は1843年。威海衛と九竜半島の租借は1898年である。(9)－bの捻軍は太平天国と時期はだぶるが組織は全くの別物。(10)は変法運動ではなく洋務運動が正しい。	易

番号	出題内容	コメント	難易度
4	インド史	記述式と語群選択の(2)(3)(5)(6)(9)は易しい。(9)のジンナーは人間科学部でも出ていた。(1)のトルコ語は要注意。インドの支配者だからヒンディー語という連想では失敗する。(4)-cのクトゥブ=ミナールは13世紀初めにつくられたモスクで、現存するインド最古のイスラーム建築である。一本釣りは難しいが消去法で対処できる。(7)-bのサティヤーグラハは「真理の把握」の意で、ガンディーの非暴力・不服従運動の理念として掲げられた。(8)-aはイスラーム教徒ではなくヒンドゥー教徒が正しい。(10)-eは、「東パキスタンの独立をインドが支持」が正しい。	標準

〔総合コメント〕

記述式問題は基礎的内容なのでしっかり得点したい。一方、正誤判定のポイントに難しいものが目立つ。「誤っているもの」を1つ選ぶ場合、4択だと3つの文は正しいわけだが、その正しい内容に難解な内容が目立つ。まずは消去法でなんとか対処し、あとはあまり疑わずに間違っていそうなものを選んだ方がいい。ただ、この量なら時間には余裕があるはずなので迷ったら後回しにし、時間をあけて消去法や心機一転してキーワード探しを始めた方がいい。本年度の正誤判定問題は例年に比べるととっつきやすかった。しかし、来年は昨年度並みに難化の可能性もあるので、対策は昨年度並みのレベルを想定しておいた方がいい。